

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、会議を利用して、GH事業所理念から具体的にした目標を職員に日常的に話している。	毎日の朝礼やユニット会議で管理者が理念や目標について話したり、皆で唱和し理解を深めている。来訪者にも分かるように、玄関に掲示している。理念にそぐわない言動がある場合には、そのつど指導・助言を行い、職員一同で共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として意識を持ち地域との交流の場を持つよう心がけている。ホーム活動においては回覧又は区長に周知している。	地元区に入区し区費の支払いをしている。回覧板を回していただき、また、当ホームの行事のお知らせも回覧していただいている。夏祭りや文化祭に合わせ近所の方が見学に訪れたり、各種ボランティアが交代で来訪し毎月何らかの催しをホームで行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員の知識向上に努めながら地域の要望に応えられる様対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催を行い近況報告・家族、委員から意見を頂き運営に役立てている。	平日の午後、定期的開催している。家族、広域連合介護保険課職員、市役所職員などが委員になっており、家族からの意見も活発にある。会議の内容は毎月のホーム便りと共に、全家族に送付している。1月の会議で家族の集える機会が欲しいという意見があり、4月には家族会を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連携に努め市町村関係者から助言を頂いている。今後も協力関係の継続をしていく。	市役所や広域連合の担当課と密に連絡を取っている。介護保険更新時には家族と共に立会、日頃の様子を伝えている。介護相談員が2名毎月来訪し、利用者と話したり様子を見ていただきその結果を報告していただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会において職員が認識を持って身体拘束のしないケアの実践に取り組んでいる。	現在拘束を必要とする方はいない。転倒を心配する家族の希望で、夜間のみセンサーマットを使用している利用者がある。身体拘束に関する学習会が法人のエリアごとに開催され、参加者が他の職員への伝達を義務づけられている。身体拘束のないケアについてのマニュアルも整備されており、意識しながら取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行い職員が、虐待防止の認識を持ち仕事に従事している。管理者は日々の観察と防止策に努めている。		

愛の家グループホーム岡谷幸町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内の会議の場を利用して職員の知識向上に努めている。 関係者と必要な支援について話し合いと支援の活用をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、ご入居者、ご家族に理解できるよう十分な時間を取って説明し不安や疑問に答えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者、ご家族の意見要望を取り入れ、家族アンケートの実施やご意見箱の設置をし、意見助言を頂き介護サービスに当たっている。その結果をご家族に直接、又は運営推進会議で周知している。	利用者全員が口頭で意思表示できている。日頃発言の少ない方には居室を訪問したときに意見を聞くようにしている。家族からは来訪時に直接意見を伺っている。手先を使う作業をさせて欲しいという要望があったので、太めのマカロニを箸でつまんで皿に移すゲームを取り入れたこともある。年1回家族アンケートをとり、意見を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や面談の機会を設けて意見を聴取し積極的に反映できるよう努めている。	毎月、各ユニット会議と全体会議を開催している。欠席した場合は会議録で確認したり、リーダーが伝達している。会議のテーマは毎回職員から募集している。管理者は1日に1回、必ず職員一人ひとりに声をかけしモチベーションを高めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給、昇格の出来る体制を整え、職員がやりがいや向上心を持って仕事出来る環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量を把握し、それぞれの段階にあった研修の機会を設けている。 研修後は他職員に周知をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流により各事業所の利点を含め周知し、ホームの質の向上にも参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の様子や発言する言葉に耳を傾け安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの意見・要望を参考にしてケアプランを作成し、面会時やお便りにて都度報告をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の近況状況、又は変化時には必ず家族連絡を行い、必要とする支援についてご家族と話し合い対応に当たっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者一人ひとりを尊重し家族の一員の関係作りに努めている。家事仕事、趣味等を通じて入居者同志の関わりが持てるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを考慮し気軽に訪問でき、ご本人との絆が持てる環境づくりを心掛けています。ご入居者の様子を周知しながら、良い関係を作り、共に入居者を支えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の訴えやご家族様からの情報を大事にして馴染みの人や場所への提供に積極的に努めている。	友人や近所の方がホーム近くにある市役所や病院に来たついでに立ち寄ることが多い。兄弟に電話をしたり年賀状を書く方もいる。定期受診の帰りに馴染みの店や場所に立ち寄ることも多い。ホーム近くからの利用者も多いため買い物途中で友人に会うこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が孤立しないよう入居者同志の関わりが持てるよう配慮支援をしている。		

愛の家グループホーム岡谷幸町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了においても継続して、ご家族の相談に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者、ご家族の意向を聞き希望に添えるよう努めている。	利用者全員が口頭で意思表示できている。言葉だけではなく表情や態度から心の内を汲み取り、個別に話を聴くこともある。本人の意思を尊重した対応を日々心掛けている。利用者がふと漏らしたつぶやきを介護記録に書き留め、職員一同で共有し、思いにそうようしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や慣れ親しんだ生活の継続が出来るよう職員は経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が日々観察の中から、入居者個々の心身状況や暮らしの中での気づきについて職員間共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者会議の開催にて、現状把握を行い課題を見つけ介護計画の作成を行っている。家族の協力も必要に応じて得ている。	職員は1~2名の利用者を担当している。介護計画は職員全員から情報を得て計画作成担当者が立案し、全職員に提示している。毎日の朝礼後、モニタリングやアセスメントを実施している。1~3ヶ月毎に見直しもしている。家族の希望や意見を伺い計画に反映し、作成後の援助内容なども確認していただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を生かしながら職員間で情報を共有し変化があれば介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々の状況を常に把握し、ご本人や家族の希望される事に応えられるようにしている。外部のサービスも積極的に取り入れている。		

愛の家グループホーム岡谷幸町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご入居者の生活の広がりを持って貰う為、地域とのかかわりを大切にしている。地域の方々が気軽に立ち寄れるよう見学会の開催や行事への誘いをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携に努め心身の変化時には気軽に相談出来るよう関係を築き、ご入居者の健康維持が出来るよう努めている。	利用前からのかかりつけ医での受診を継続している。定期受診は主として家族が付き添い、緊急時には職員が対応している。協力医による訪問診療が一人ひとりの利用者に対して月1回あり、特変時にはその都度行われている。訪問看護ステーションと契約しており、毎週木曜日に同一看護師が来訪し健康状態のチェックをしている。また、緊急時は24時間の対応が可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問時に1週間の心身状況を伝え適切な看護や指示が受けられるよう密に情報交換を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院、医療関係者の関係を大切にして、相談情報交換の場に参加し、入居者の対応について両者感の連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組ん	状態の変化をご家族の面会を利用し報告を行っている。関係者とも情報共有しながら対応をしている。	利用契約時に事業所の方針を説明し理解していた。現在のところ看取りの経験はない。状態の変化に応じて家族の希望に沿った対応をしている。重度化した場合には医療機関へ入院することが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修の場を設け、急変、事故についてマニュアルに添った訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練にて様々な想定での訓練をしている。近隣住民の協力や参加を頂いている。	火災を想定した避難訓練を年2回実施している。今年度は7月に消防署員立会いで避難訓練と消火器の使い方の訓練を実施し、1月は職員だけで避難訓練を実施した。9月には市の防災訓練に職員が区民として参加した。近所の方も避難誘導訓練に参加し、どこにどの利用者が居るのか不明だと意見があり、居室の見取り図を作り玄関に貼り出した。2階の利用者を全員搬出するまでに15分かかり、今後の課題として浮かび上がった。	課題を具体的に掘り下げ、解決に向けて計画的に取り組むことを期待したい。大掛かりのものだけでなく職員個人が万が一に備え夜勤時のシミュレーションを繰り返すことも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々を尊重し、プライバシーを守り、言葉かけや対応配慮した支援を行っている。	基本的に苗字に「さん」づけで呼び掛けている。個人情報保護・個人の尊重に関する教育が予定されており3ヶ月に1回は法人エリア内で実施している。中途採用時の育成研修としても位置づけている。退職後の守秘義務についても教育がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が気軽に思いや、自己決定出来るよう、コミュニケーションが取れる環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の押しつけをする事無く、ご入居者の思いに添った生活が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の希望に合わせた身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り・盛り付け・片付け等一緒に行い、季節に合わせた食事で楽しみが持てるよう努めている。	ミキサー食を全介助で召し上がる方が若干名いるが、殆どの方は自力で普通食を召し上がっている。法人の栄養士により献立と調理指示書が1週間ごとに作成されホームあてに送付されてくる。調理専門スタッフが全利用者とは職員分を作り、野菜を切ったり、茶わんを並べるなど、準備や後片付けを手伝う利用者も数名いる。行事食やおやつを利用者が手作りすることもあり、この2月は恵方巻きを作ったという。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は個々に合わせ提供をしている。禁止食は代用品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご入居者の力を引き出しながら、毎食後の口腔ケアを行っている。 ポリデントは週2~3回行っている。		

愛の家グループホーム岡谷幸町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を活用し、排泄パターンを知り、排泄の自立に向け、自尊心に配慮しながら、声掛けや誘導を行っている。	全介助及び一部介助の方が若干名おり、他の方は自立している。下着は各人の状態により選択している。布パンツのみでパットも不要の方が半数近くいる。利用開始時にリハビリパンツだった方が布パンツとパットへと改善された事例もある。職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し、見守りながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を把握し、自然排便を促す為に食事や活動の提供を行っている。便秘気味の方は医師に相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の希望に添えるように努めている。(時間、回数、曜日)	希望があれば入浴は毎日可能である。大半の方は週に2~4回入浴している。職員2人で全介助の方が若干名おり、一部介助・見守りの方と自立の方がそれぞれほぼ半数ほどいる。入浴を拒まれる方には時間帯や職員を替えて誘ったり、翌日に変更するなど、言葉かけも含めた工夫をしながら勧めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの睡眠パターンを理解し安眠出来る様生活のリズムと環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが理解できるよう薬説明文書をファイルにまとめてある。症状の変化時についての対応も日常的に共有されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を理解し、ご入居者の得意な事を生かした役割作りをしている。食べたい物の希望に添えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望する食事が出来るよう外食の機会を設けている。個人希望の外出・外食等を年間計画に盛り込むようにしている。	近くの公園までの散歩を日課にしている。寒い時は外出困難のため、ホームの廊下を50メートル程往復し機能維持をしている。ユニットごとに諏訪湖へ白鳥を見に行ったり足湯などに浸かり、行き帰りに外食を楽しんでいる。季節毎に行事計画が立案されており、近隣市町村の公園や名所旧跡を巡っている。夏の諏訪湖の花火も楽しみの一つとなっている。	

愛の家グループホーム岡谷幸町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで金銭管理を行っている。買物の希望がある時は本人と共に出掛け、金銭の出し入れは行って貰っている。必ず見守り支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方は要望に応じている。 年賀状を出したり、ホームにも個人宛てで郵送されてきている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じる装飾や、ホームでのご様子写真を貼り居心地よい環境づくりに努めている。	玄関に管理者手書きの季節感あふれる立て看板があり、来訪者を温かく迎え入れている。壁には利用者手作りの作品や折り紙が飾られている。外出時の集合写真も貼られている。床暖房が心地良い暖かさになっており、濡れタオルで加湿している。利用者は穏やかにくつろいで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ・ソファの配置を考えたり、仲間同志が会話を持てるよう居心地よい場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見慣れた物、使い慣れた物等で、ご本人の安心を保ち、居室内の安全の確保を行いながら心地良く過ごせる場を常に提供している。	清掃が行き届き清潔な居室となっている。仏壇を持ち込まれている方もおり、毎日ご自分で水と御飯をお供えている。衣類を種類ごとにきちんとたんでタンスにしまわれている方もいた。床は滑りにくいフローリングになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の力を引き出しながら自立した生活が維持できるよう声掛け、支援を行っている。		